# 台風24号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成30年9月27日
福井県農林水産部

**〇強風対策**
**・非常に強い台風であるため、特にハウスやカキ、ナシの強風対策を徹底する。**
**・ナシは、果実の落果防止のため、棚の「あおり止め」を点検する。**
**・肥大の進んだカキでは、枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の設置、点検、補強を行う。**

**〇大雨対策**
**・大麦作付予定圃場では、降雨前に額縁排水溝、補助暗渠を設置しておく。**
**・大豆、ソバ、野菜の圃場の周囲や排水溝を掘り直す。**

## 1 共通事項

・人命第一の観点から、大雨・強風の中での圃場の見回りはしない。
・大雨や強風がおさまった後でも、増水した河川や水路等の危険な場所には近づかない。
・排水溝を掘り直す。特に、冠水や浸水しやすい圃場は、重点的に排水対策を実施する。

## 2 園芸施設等

・雨水がハウス内に侵入しないよう排水溝を点検する。
・ハウスの浮き上がりを防ぐため、パイプの基礎部の土を締め固める。特に、新設ハウスは被害を受けやすいのでアンカー増設等の対策を行う。
・ハウスバンドを締め直し、被覆材の破損部の補修や筋かいの補強を行う。
・周囲に防風ネットが設置してある場合は、点検、補強を行う。
・ハウス等の周囲はよく整理し、風に飛ばされやすいものは片づけておく
・風が強くなってきたら天窓、サイドビニール、入口を閉める。換気扇がある場合は、稼働させてハウス内を負圧にする。

＜通過後＞
・浸水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、速やかに排水する。
・風の心配が無くなったら、ハウスのサイドや天窓を開けて換気に努める。
・マルチ栽培をしている畝が冠水した場合は、中が水分過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩までめくり上げ、土を乾かす。
・土壌表面が固くしまった場合は、軽く中耕し、表土の通気をよくする。

３　大麦
・作付予定圃場では、降雨前に額縁排水溝、補助暗渠を設置しておく。

＜通過後＞
・降雨直後の土壌水分が多い状態で、耕起や播種を行わない。

**４　大豆･ソバ**
・排水溝や落水口を確認し、手直しを行う。
・大豆圃場では、枕地の培土が排水を妨げないよう、畝を切り通しておく。

＜通過後＞
・圃場の停滞水を早急に排水する。

**５　野菜（露地）**
・キャベツ、ブロッコリーは、浸水すると根腐れなどを起こすので、排水溝を手直しする。浸水した場合は、24時間以内の排水を徹底する。
・ネギは、収穫直前のもののみ土寄せ等を行い、株のゆれを防ぐ。

〈通過後〉
・茎や葉が傷ついた場合、細菌病が発生し易くなるので被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。併せて、茎葉に付着した泥等を洗い流す。
・草勢を回復するため、液肥の葉面散布や追肥を行う。
・土壌表面が固まった場合は、軽く中耕して土壌中に酸素を供給し、根張りの回復を図る。
・根元が露出している場合は、軽く土寄せを行う。

**６　果樹**
・ナシ等の棚栽培では、風による棚面の動揺を防ぐため、棚の「あおり止め」の点検を行うとともに、枝を棚に誘引・結束しておく。
・肥大の進んだカキでは、枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の設置、点検、補強を行う。

＜通過後＞
・倒木した場合は速やかに立て直し、支柱等にくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻す。いずれの場合も癒合剤を塗布する。
・傷果等が発生した場合は摘果を徹底する。

## ７　花き

・排水溝や落水口を確認し、手直しを行う。

〈通過後〉

・圃場の停滞水を早急に排水する。
・茎や葉が傷つくと、病害が発生するので、病害防除を徹底する。

## ８　畜産

・施設の損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修を行う。
・施設や保管飼料への雨水の侵入を防ぐ。
・放牧地においては、牧柵等の破損、土砂崩れ等の発生する危険がある場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。

〈通過後〉

・畜舎等が浸水した場合は、すぐに排水し、疾病予防のため洗浄・消毒し、乾燥に努める。